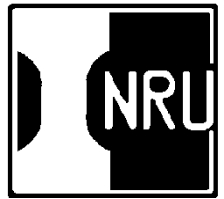


春闘勝利へ総団結を！



今こそ内部留保を労働者のために！



国 労 近 畿

第216号

発行 山本 泰光
編集 江口 芳生

国鉄労働組合
近畿地方本部
大阪市北区錦町2-2
TEL 06-6354-0700
FAX 06-6358-1465

2月12日、国労大阪会館において第18回拡大地方委員会を開催し、第18回定期大会以降の活動を総括し、22春闘をはじめとする当面の闘争方針を決定しました。

委員会は有田副委員長の司会で始まり、議長に京滋地区本部の大内委員を選出、山本執行委員長を代表して植田執行委員長から挨拶を受けました。

野々口副委員長が協約協定の締結について提案し、承認されたあと、林書記長が当面する闘

粘り強く闘おう

山本執行委員長挨拶



新型コロナウイルス感染症はオミクロン株を中心に全国的に拡大して第6波となり、まん延防止等重点措置が36都道府県に適用され、13都県で延長が決

い岸田自公政権に対し、怒りを覚えます。コロナの状況であってもJRで働く全ての労働者の健康と安全を守り、安心して働けるように、会社負担のPCR検査や療養・待機中の賃金100%補償を求めます。

国労は第192回拡大中央委員会、第42回拡大西日本委員会、第42回拡大西日本委員会が春闘要求を決定しました。財務省が発表した大企業の2020年度内部留保は、前年より2%増やし484兆3648億円となり、調査を開始以来、13年連続の増加です。JR西日本の内部留保は6210億円であり、赤字決算でも株主配当は維持し、社員には我慢を強いています。会社・他労組一体の思想攻撃に負けず、要求の根拠を明らかにし、内部留保・利益剰余金を還元させるためにどう闘うのか。JRという企業内だけでなく、日本で働く全ての労働者の賃金引上げ、労働条件改善、生活改善のために、全国単一組織の優位性を活かした客貨一体の統一闘争として、ストライキを背景に国民的諸課題と結合して闘うことが重要です。

コロナ下での闘いは、一定の制限もありますが、掲示板や職場新聞の活用など、組合員一人一人が国労の底力を示し、全ての行動・闘いを組織拡大に結び付けることが大切です。現状に甘んじることなく、怒りを忘れず、全ての闘いを勝利させるために、学習し、闘う力を強め、

2022年春闘勝利
安全・安心の鉄道と社会をつくろう！
3.10国労西日本総行動
JR西日本本社・JR貨物関西支社前
要求獲得行動
3月10日(木) 15時30分~16時
JR西日本本社・JR貨物関西支社前

諦めることなく粘り強く闘いましょう。

3月のダイヤ「改正」の強行や、「ローカル線の維持困難」という社長発言など、移動する権利や生活に欠かせない地域の足を平気で切ろうとしており、京阪神エリアでも、減便や「非対面非接触を進めるため」に遠隔対応・無人時間帯の拡大・委託化、駅の無人化など、コロナ感染拡大を利用した「大合理化施策」を加速させています。乗務員では行路数は減っても要員を削減することにより拘束時間が延び、労働強化になっていきます。委託化と直営化の繰り返し、各系統で施策が強行され、福知山線事故の前に戻りつつあるという段階ではなく、戻ってしまっています。労働組合としてチエック機能を果たし、労働者の生活を守り、利用者の安全とサービスを守るために運動しようではありませんか。

(委員の発言内容は次号に掲載します)

政治を変えるために、7月の参議院選挙、沖縄県知事選はじめること、首長選挙の勝利、自公政権を一刻も早く打倒するため、闘おうではありませんか。

近畿地方本部は様々な運動の先頭に立つて闘う決意です。共に頑張ります。